官業勞働者協議會

今日大會を開く

王子では演說會

小石川勞働者主催官業の勞働者同盟第五回會は、今日午後一時から王子石川西川洋食部に於て開き諸般の手管を定め感謝の意を表する

十日は

午後四時から同じく西川洋食部に大會を開催し、更に午後六時からは市外王子劇場に失業問題講演會を開き尾崎行雄氏外十數名が熱辯を振ふ由である、

明日は

更に官業勞働者が正午より官羽の靈國寺境内に集合それより日比谷公園まで一大示威運動を試みる豫定だと

官業勞働者大會初日

手當問題尙決せず

警官憲兵の目が光る

第四回官業勞働者大會の第一日はりさうであるけれども東側の客一豫定の通り九日午前十一時三十分頃から小石川区除通院前西川洋食部に於てから小石川区除通院前西川洋食部に於て開かれたが是より先各地からの一で上京した

決議を齎し

九州八幡製鐵所の四名、小倉兵器工廠會支部の一名、呉工廠會の二名、大阪工場會本部の七名、横須賀海軍工廠の二名、名古屋統器工場の二名、横須賀海軍工廠の五名、日本勞働總聯盟の五名、千住製絨所の七名、東京側から市電交通勞働の三名、日本勞働總聯盟の五名、千住製絨所の七名

などの委員が各自殺氣を帶びた面相で席に着けば場内何となく緊張氣分を示し

私服の警官

憲兵が五六名場の内外を物々しく警戒して居る傍聽者は二百名程で是また所狹きまでに詰寄せ十名ばかりの婦人傍聽者が殊更人目を惹いた、定刻になると日本勞働會長安達和氏が主催者を代表して開會の挨拶を述べ議長鈴衛委員に十國憲から一名づゝを挙げ別室で協議の結果日本勞働聯盟の大友安五郎氏を議長に推薦して一先づ休憩し更に午後一時半から再開し

本會議に入

り当日協議の眼目とも云ふべき失業者の手当要求は飛低を日給の二箇年分とする事に対し若し政府がこれを容れぬ場合に執るべき態度を決定しやうとて議題に上せたが関東と関西又は九州地方と夫々思想の上に相異があつて関西九州は穩安協が成されたが一般に議事は形式にばかり走つて容易に實質問題に觸れず

此日の

席上見逃す事の出來ないのは小石川勞働と日本勞働聯盟との確執で足立誠田野芳雄三君の反目的態度は到る處に見られた事である、斯くて午後六時からは懇談會に入り席上テーブル・スピーチに入つた

小石川と日本兩勞働の角突き合ひ

官業大會の席上に見逃せない險惡な流れ

壓迫された海軍側

夕刊續報——官業勞働總同盟の第一回大會は小石川傳通院前西川洋食店樓上で九日午後四時開會

日本勞働聯盟の大友安五郎君を議長に推薦し聯盟呉同上會大村理事は『從來海軍側は

壓迫ゥ

甚だしかつた爲め勞働運動をする者が少なかつたが今後は陸軍側と協力して大いにやるつもりである、然るに今日の大會議に僅二名しか出席しないのは實に遺憾である』と叫ぶと日本勞働聯盟安達理事は『本聯盟は須賀支部から五名來る筈の所斯う云ふ電報が來た』とて『然し遅蒔

國葬の

日突然出動と變更した』との電文を讀む

大騒ぎ

を始める、呉の大村君は『議長の不誠に付け込んで不眞面目の人が多い餘である』と大に憤慨し結局資格審査は否決

今日は王子で演說會

示威行列は十一日に

官業勞働大會は今日午後六時から府下王子町王子劇場で演說會を開き尾崎行雄氏の司會に就いて演說會を開き尾崎行雄氏も出席すべく十一日には小石川勞働會日本勞働同盟會交通勞働會築地工人會の各團體は音羽護國寺に約一萬五千の勞働ひをして日比谷公園まで示威行列をする爲め其筋と交渉中である

憲兵巡査に圍まれて官業勞働協議

西川洋食部で第一日會合

八日夜入京した西各地の官業勞働代表と日本勞働聯盟石川勞働、交通勞働各代表五十四名は九日午後一時西川洋食部に於て

第一日

の會を開いた、傍聽者百二十名、私服の憲兵、巡査約廿名警戒の下に日本勞働聯盟の安達君開會の辭を延べ『政府は誠意を以て研究すると契つて置き

熱辯を

振ひ午後一時休憩した午後は委員會を開いて今後取るべき態度に就き協議する筈

勞働者の反普選熱

純勞働運動に努力せん

勞働總同盟京阪神聯合會を糾合しる會員あり既に賀川豐彦氏の如きは當時の決議を無視し陣頭に立つて

夜大阪市内通り共益社で開き對時局問題をメーデーに就いて協議する筈であるが當夜は右協議外に普選運動に對する關西勞働同盟會の態度も或る程度まで問題とする筈である普選運動に對して

は昨年四央公會堂で各聯合會大會を開いた際種々な意見が出たが結局、普選が實施されたとしても勞働者はソレに依つて何程も救はれ

ばの力を一般勞働運動にせ

會政策に有効である、此の際運動を二分するは不得策で當時の

各聯合會は總對に普選運動は行はぬと決議したもので大阪聯合會はコノ決議に依つて以來ブツツリ普選運動は打切つて居るに拘はらず議會開會と共に汪洋と流り渡つた普選熱に動かされ京都、神戸兩聯合會中には夫々運動に參加して居

央公會堂で各聯合會

て白熱的運動をやつてゐたと云ふので大阪市内では不平の聲が渦巻き起り排斥運動さへ起つて居る際こて總同盟將來の對普選態度に就き更に強固な申合せがあるらしい模樣であるが普選案提出の日に此の反普選熱を大阪勞働者に依つて掲げられるのは一つの皮肉である